

令和4年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文（中学生）の部  
優秀賞（国土交通事務次官賞）

「 ボランティアに参加して 」

福井県 福井市足羽第一中学校 2年 北島 莉玖斗

八月三日の夕方、四日に激しい雨が降る予報が出ていました。線状降水帯が確認されていて、僕は福井豪雨のことが頭によぎり、不安な気持ちになりました。午前中部活の予定でしたが休むことにしました。案の定、四日の十一時頃には激しい雨が降り始めました。午後五時には福井市全域に避難指示が出されました。自宅にあるスマートフォンのアラームが一斉に鳴り、とても驚きました。

五日になると一変、福井市では晴れて、僕の住む地区では被害はありませんでした。ところが、夕方にニュースを見ると、南越前町では、住宅浸水や土砂災害があったことが報道されていました。JR北陸線が土砂と濁流にうまってしまい、家の一階は水につかっていた。ゴムボートにのって救助されている方もいました。それを見て僕は初めて南越前町が被害に合っている事を知りました。

福井県に限らず、日本では毎年どこかで大雨で土砂災害が起こっています。僕は、もっと土砂災害の事を知るために防災センターに行ってきました。土砂災害の映像を見たり、土石流の事を山つなみと言う事を知ったり、ジオラマを見て地すべりのメカニズムについて知りました。

南越前町の被害を知ってから一週間以上たっても、ニュースでは、まだ今庄地区の人達は復旧のめどがたっていない事や、ツイッターやSNSなどで「まだまだ、ボランティアの方が必要。」や「まだまだ圧倒的に人が足りていない。」という書き込みを見ました。少しでも力になればと思い、僕はボランティアに参加することにしました。

南越前町へ車で向っていると左手に日野川が見えました。水は茶色く濁り、川岸には鉄パイプや木が流れつき、堤防のコンクリートはえぐれ侵食されていました。水量が多く流れが早かったのだろうと想像できました。

受け付けをするために旧今庄中学校に行くと、学校のグラウンドには、大きな山が二つできていました。一つはがれきの山、もう一つは土砂の山でした。そして浸水で使えなくなった家電が、並んでいました。冷蔵庫が並んでいる様子は、まるで、家電の墓場のような感じでした。ボランティアを行う場所に向かうマイクロバスからも土砂にうまってしまった田んぼ、くずれてしまって黒い大きい土のうがつかれた堤防、橋のガードレールには木がはさまり、水が橋をこえていたことが分かりました。家の壁には水のあとがのこっており、二メートルは超えていました。ニュースで見て南越前町の被害を知っていたつもりでしたが、実際に現地に行くと、自分で考えていたよりも被害は大きく、復旧もまだまだできていませんでした。

僕が作業する家に着くと、まだ電気がとおっていませんでした。僕は駐車場にたまった泥をスコップで集めたり、道路の側溝にたまった泥をバケツに入れたりしました。たまった泥は粘土のようで重く感じました。役場から借りてきたバケツは三十個ほどありましたが、すぐいっぱいになりました。泥は小型トラックに乗せて、旧今庄中学校に捨てに行きました。また、ゴミを分別して、袋につめたり、運んで小型トラックにつむ作業もしました。物一つ一つには思い出があり、それも被災してしまうと捨てなければならなくなってしまうと思い、悲しい気持ちになりました。

休憩時間には被災された時のことを教えてもらいました。その日はたまたま家に居なかったのも、けがをしただけで土砂に巻き込まれる事はなかったそうです。

僕は南越前町でボランティアに参加して、あらためて、土砂災害のおそろしさを知りました。メディアで、取り上げられているのは、ほんの一部で、こんなに被害が大きくて、家屋や、ライフライン、人々の心に影響を与えていることは現地に行くまで分かりませんでした。

そして、災害が起こった時には助け合う事が大切だと思いました。僕が作業をしていると、他のボランティアの方に声をかけてもらったり、ほめてもらってとてもうれしい気持ちになりました。

僕はまだ中学生で力もなく、気のきいた言葉を被災された方にかけてあげることができませんでしたが、ボランティアに行くと、よろこんでもらって、また来て力になりたいと思いました。

そして、自分でできる事はハザードマップをみて、自分の住んでいる地区がどのような場所なのかを知っておく事。避難場所の確認する事。天気予報で大雨の予報が出たら不要不急の外出をしない事。それが被害を最少限にする事につながると感じました。